

試合会場でもごみ分別

環境面でもアピール



プロバスケットbjリーグの滋賀レイクスターズは、試合会場でごみを再利用する「エコステーション」を始めた。4種類の分別かごが2カ所に置かれ、観客らがペットボトルなどの回収に協力した。写真、スポーツの普及を図りながら地域貢献を目指す取り組みの一環として、環境面でもアピールする。

bjリーグの中で、ごみの再利用に取り組むのは珍しいという。レイクスターズのスポンサーの一つ「近畿環境保全」



(草津市)が協力し、ホームゲームの最終戦まで続ける。同社の西村忠浩社長(36)は「エコというにはまだ入り口に過ぎないが、ごみの再利用

琉球に連敗し 西地区3位に

レイクスターズは19、20日、守山市民体育館で琉球ゴールデンキングス(沖縄)と対戦し、

というわかりやすいことから始めた。息の長い取り組みにしたい」と話す。

84-91、72-81と2連敗した。19勝15敗となり、琉球に抜かれて西地区3位になった。次の地元試合は3月5、6日、野洲市総合体育館での東京アパッチ戦。

守備も攻撃も、ちぐはぐ感が目立った。とくに19日。守備で相手にスクリーンをかけられ、簡単にシュートを打たれた。シュートを外した後のリバウンドを2、3人の味方が取りにいくが、連係が悪く相手に奪われた。攻撃ではチーム全体で攻める姿勢に乏しかった。反撃の機会は随所にあったが、フリースローを決められなかったり、ミスでボールを奪われたりした。

石橋貴俊ヘッドコーチは試合後、観客に向かって開口一番「申し訳ありません」と言った。第4クォーターで気を吐いて12得点の藤原隆充主将

(32)は「とにかく頑張るしかない」と繰り返した。レギュラーシーズンは残り18試合、チームを立て直す時間は少ないが、まだ遅くもない。

(大西英正)

